

小倉薬剤師会 9月学術研修会のご案内

謹啓 先生方におかれましては 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さてこの度、下記の要領にて小倉薬剤師会学術研修会を開催いたします。
ご多忙中、誠に恐縮とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席頂きますよう
お願い申し上げます。

謹白

記

【日時】 2017年 9月12日(火) 19:00～

【場所】 小倉薬剤師会館 3階 研修室
北九州市小倉南区富士見2丁目8番20号

【情報提供】 19:00～19:15
『ビカルタミドOD錠「NK」』について

日本化薬株式会社

【P S】 1. ヒューマニズム (倫理) : ①-18、④-1・5
2. 医薬品の適正使用 (安全性、経済性) : ②-104～108、③- 4・26

【特別講演】 19:15～20:15

座長 学術委員会 井原由紀子

『 前立腺癌診療について -薬物療法を中心に- 』

演者 小倉記念病院 泌尿器科

部長 坂野 滋 先生

<講演会要旨>

前立腺癌は日本でも2015年から男性がん罹患数第1位となった。診断は、PSA検査を中心としたスクリーニング、生検による確定診断、および画像検査による病期診断によってなされる。限局性前立腺癌に対する治療法としては、前立腺全摘除術(開腹・腹腔鏡下・ロボット支援)、放射線療法(外照射・組織内照射)、監視療法がある。進行性前立腺癌にはホルモン療法として、去勢術もしくはLH-RHアゴニスト・アンタゴニスト±抗アンドロゲン薬投与が施行される。ホルモン療法の有害事象には、性功能障害・ホットフラッシュ・女性化乳房・骨塩量低下・糖脂質代謝異常等がある。これら従来のホルモン療法が無効となった去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)に対しては、近年、新規ホルモン薬(エンザルタミド・アピラテロン)や化学療法薬(ドセタキセル・カバジタキセル)、さらに骨転移例には塩化ラジウム(^{223}Ra)が投与可能となった。CRPC薬物療法の現状と問題点についてもまとめてみたい。

共催:(一社)小倉薬剤師会
日本化薬株式会社